

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長 福島保

高校生と保護者の学習・進路に関する意識調査（震災の影響）

東日本大震災により高校生の価値観や大学進学意識が変化**家族・知人が被災した高校生、ボランティアや募金など主体的に被災地に関わった高校生は、
助け合いの精神や社会貢献意識が強まったと回答**

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市、以下ベネッセ)の社内シンクタンク「ベネッセ教育研究開発センター」では、2011年9月に、全国の高校生とその母親 4,647組を対象に、「高校生と保護者の学習・進路意識」について、インターネット調査を実施しました。当調査は、「東日本大震災が高校生の価値観に与えた影響」と、「親子間での学習・進路意識のギャップ」の、2つのテーマで行いました。今回は、「震災の影響」について発表いたします。

主な調査結果は以下の通りとなります。

- ① 全国どの地域でも、約2割の高校生がボランティアや募金などを通して「被災地と主体的に関わりを持った」と回答。「家族・知人が被災した」高校生は、被災の実態と同様に、東北・北関東に多い。
- ② 「家族・知人が被災した」「被災地と主体的に関わりを持った」高校生は、震災を経て「お互いに助け合って生きることの大切さを強く感じるようになった」「どんな厳しい状況でも生き抜く力が必要だと思うようになった」(それぞれおよそ7割台)と考えるようになっており、全体平均と比較して価値観の変化が大きい。
- ③ 震災を経て「社会に貢献したいという気持ちが強まった」「ボランティアに対する関心が強まった」と回答した割合は、「被災地と主体的に関わりを持った」高校生では5割弱となっており、全体平均との差が最も大きい。
- ④ 大学進学を希望する高校生のうち、「家族・知人が被災した」「被災地と主体的に関わった」高校生は、「大学生活を無駄に過ごしてはならないと強く感じるようになった」(約5割)、「大学で学ぶ目的について真剣に考えるようになった」(約4割)と回答している。

*「家族・知人が被災した」高校生、および「被災地と主体的に関わりを持った」高校生の定義は以下の通り。

「家族・知人が被災した」…家族や自宅、親戚、友人・知人が被災した。

「被災地と主体的に関わりを持った」…被災地を実際に訪れたり、ボランティア・募金・物資を送るなどの被災地支援を行った。

調査結果からは、全国の高校生の5人に1人(約2割)が、被災地を実際に訪れたり、ボランティア・募金・物資を送るなど、被災地に対して何らか、主体的に関わりを持ったことがわかりました。6割強の高校生は、震災を経て「お互いに助け合って生きることの大切さを強く感じるようになった」「どんな厳しい状況でも生き抜く力が必要だと思うようになった」と回答しています。なかでも、被災地と主体的に関わりを持った高校生の5割弱は、「社会に貢献したいという気持ちが強まった」「ボランティアに対する関心が強まった」と回答しています。

また、大学進学を目指す高校生の3~4割が、「大学生活を無駄に過ごしてはならないと強く感じるようになった」「大学で学ぶ目的について真剣に考えるようになった」と回答していることから、保護者や教員、あるいは大学や社会が、こうした高校生の気持ちを受け止め、将来につなげていくサポートをすることが必要であると考えます。

株式会社ベネッセコーポレーション
広報部 担当:三田村、坂本、濱野、西沢
電話:042-356-0657 FAX:042-356-0722

●調査概要

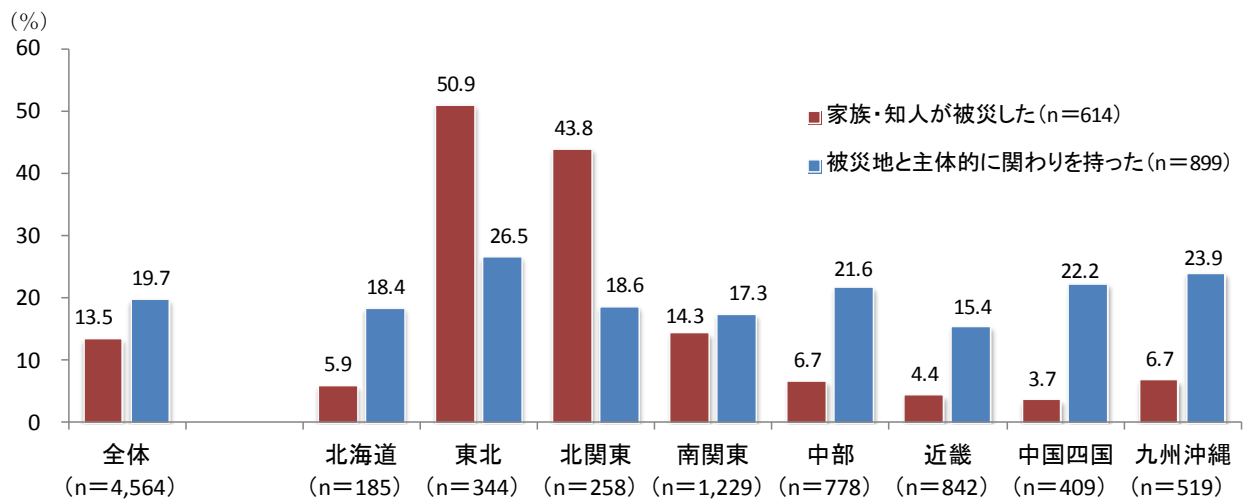
名称	高校生と保護者の学習・進路に関する意識調査
調査対象	高校1年生～3年生とその母親 (子どもの学年、性別はほぼ等比率)
調査地域	全国 (全国8地域ブロック別の子ども数の比率に応じてサンプルを収集した)
有効回答数	4,647組 (高校生4,647人、その母親4,647人) ※以下の分析では、震災との関係をたずねた設問に「答えたくない」と回答した83人の高校生を除いた4,564人の高校生を全体サンプルとして集計した。
調査時期	2011年9月9日～12日 (震災半年後の節目に実施)
調査方法	インターネット調査
調査項目	(1)学習・進路に関する親子の意識のギャップ (2)震災の影響による高校生の価値観の変化

●調査結果詳細

① 全国どの地域でも、約2割の高校生がボランティアや募金などを通して「被災地と主体的に関わりを持った」と回答。「家族・知人が被災した」高校生は、被災の実態と同様に、東北・北関東に多い。

Q 2011年3月11日に発生した東日本大震災とあなたの関係についてお答えください。

図1 高校生の震災との関係（全体、地域ブロック別）



注1)「家族・知人が被災した」…家族や自宅、親戚、友人・知人が被災した。
「被災地と主体的に関わりを持った」…被災地を実際に訪れたり、ボランティア・募金・物資を送るなどの被災地支援を行った。

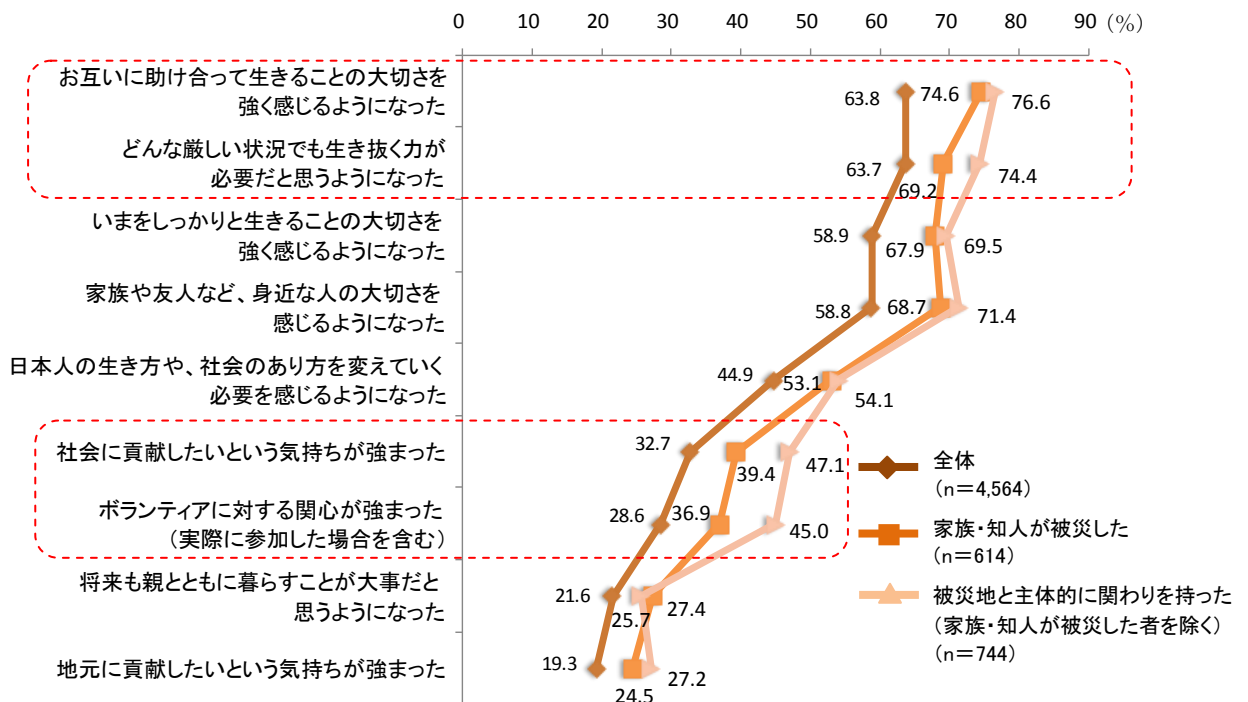
注2)「北海道」…北海道。
「東北」…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県。
「北関東」…茨城県、栃木県、群馬県。
「南関東」…埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県。
「中部」…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県。
「近畿」…三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県。
「中国四国」…鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県。
「九州沖縄」…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県。

②「家族・知人が被災した」「被災地と主体的に関わりを持った」高校生は、震災を経て「お互いに助け合って生きることの大切さを強く感じるようになった」「どんな厳しい状況でも生き抜く力が必要だと思うようになった」(それぞれおよそ7割台)と考えるようになっており、全体平均と比較して価値観の変化が大きい。

③震災を経て「社会に貢献したいという気持ちが強まった」「ボランティアに対する関心が強まった」と回答した割合は、「被災地と主体的に関わりを持った」高校生では5割弱となっており、全体平均との差が最も大きい。

Q 2011年3月11日に発生した東日本大震災から約半年が経ちますが、あなたは、この度の震災の影響による変化として、次のようなことがどれくらいあてはまりますか？

図2 震災による高校生の価値観の変容(全体、震災との関係別)



注1)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

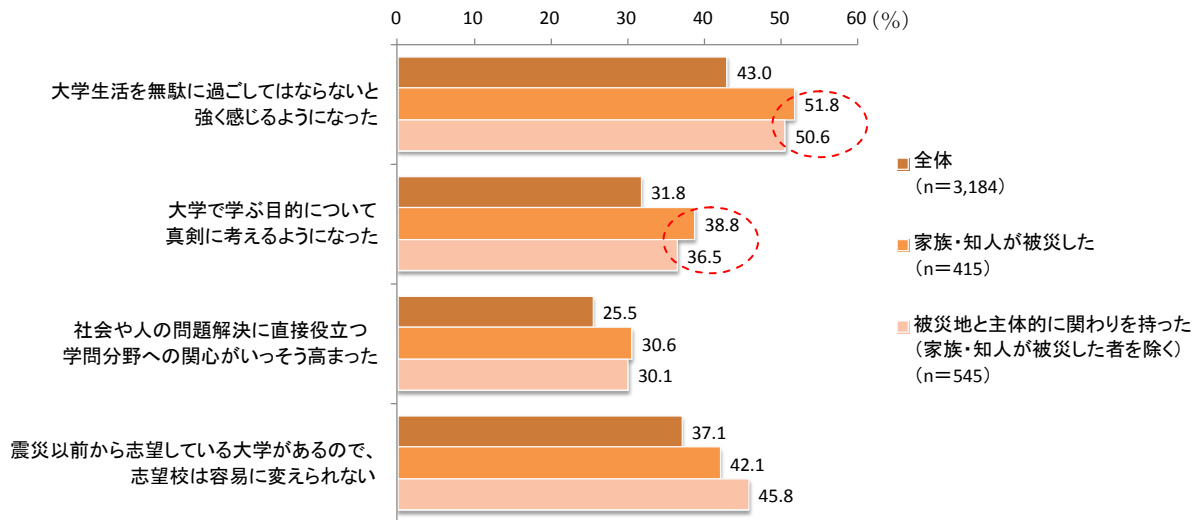
注2)「家族・知人が被災した」…家族や自宅、親戚、友人・知人が被災した。「被災地と主体的に関わりを持った」…被災地を実際に訪れたり、ボランティア・募金・物資を送るなどの被災地支援を行った。

注3)「被災地と主体的に関わりを持った」と価値観の変化の関係を明らかにするために、「被災地と主体的に関わりを持った」層から「家族・知人が被災した」層を除いて集計した。

④大学進学を希望する高校生のうち、「家族・知人が被災した」「被災地と主体的に関わりを持った」高校生は、「大学生活を無駄に過ごしてはならないと強く感じるようになった」(約5割)、「大学で学ぶ目的について真剣に考えるようになった」(約4割)と回答している。

Q 2011年3月11日に発生した東日本大震災から約半年が経ちますが、あなたは、この度の震災の影響による変化として、次のようなことがどれくらいあてはまりますか？

図3 震災による高校生の大学進学意識の変容(全体、震災との関係別)



注1) 大学進学希望者のみ分析。

注2) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

注3) 「家族・知人が被災した」…家族や自宅、親戚、友人・知人が被災した。「被災地と主体的に関わりを持った」…被災地を実際に訪れたり、ボランティア・募金・物資を送るなどの被災地支援を行った。

注4) 「被災地と主体的に関わりを持った」と大学進学意識の変化の関係を明らかにするために、「被災地と主体的に関わりを持った」層から「家族・知人が被災した」層を除いて集計した。

●Benesse 教育研究開発センターの活動/Benesse 教育情報サイトでの情報提供について

- Benesse 教育研究開発センター (<http://benesse.jp/berd/>) では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。
- Benesse 教育情報サイト (<http://benesse.jp/>) では、ベネッセが保有する教育関連のデータを公開しています。